

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,928	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素排 換出 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		4,928

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス 総 排 出 量	4,389	t-CO ₂	7,268	t-CO ₂	5,005	t-CO ₂	4,968	t-CO ₂	4,928	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			▲ 65.6	%	▲ 14.0	%	▲ 13.2	%	▲ 12.3	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの 排 出 量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりの みなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

目標と比較し約32%の削減となった。基準算定年度を令和3年度ではなく新型コロナ感染拡大前の令和元年度としている。原油換算エネルギー量は令和元年度3,877kLと比較し3,177kL、(700kL)18%減少となった。下記6「温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況」における各施策も効果を上げていると思われる。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	クールビズの推奨	5/1～9/30まで「ナゴヤドーム省エネスタイルキャンペーン」を実施し、省エネに努める	指定期間はノーネクタイ、軽装を推奨し、冷房の風量や設定温度を抑えるようにした。
省エネルギー・省資源の推進／照明	LED器具等への更新	お客様エリアを中心に順次照明器具をLED化していく	館内の照明を順次LED器具へ更新している。
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	中間期等は積極的な外気の導入により、空調機又は熱源機の運転時間の削減（外気冷房）	中間期や非イベント日は換気設備や外調機を積極的に使用し、省エネに努める	中間期は冷房や暖房の使用を避け外気による温度調節を積極的に行った。
省エネルギー・省資源の推進／高効率機器への更新	老朽化した氷・水蓄熱設備及び吸収式冷温水機更新	2022～2024年にかけて順次更新していく	氷・水蓄熱槽と吸収式冷温水機を更新して年間380,000kWhの電力と60,000m ³ の都市ガスを削減した。効果はいずれも推定。
省エネルギー・省資源の推進／高効率機器への更新	老朽化した油入変圧器及びモールド変圧器更新	2020～2026年にかけて順次更新していく	開業以来使用している高圧変圧器を2014年トップランナー基準の高効率変圧器に順次更新している。740,000kWh/年（推定）の電力を削減見込み。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
平成26年	太陽光発電設備	71735kWh

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

雨水利用、女子トイレ内擬音装置の設置、電子共有フォルダによるペーパーレス化、緑化による日射対策

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

自動車使用時は、急発進・急加速を控え、アイドリングストップの確実な励行等エコドライブを呼びかける。
